

**公益財団法人ひょうごコミュニティ財団**  
**2014年（平成26年）度 事業計画**  
(2014年7月1日～2015年6月30日)

**1. 全体**

昨期は、県内へのネットワーク拡大、主要企業への訪問と関係作り、神戸市の委託による寄付啓発事業、そして財団として初の助成事業となる「新・共感寄付事業」のスタートと、実質初年度として様々な事業を実施した。県内を広く回ったことで、企業も含めて一定の関係作りに成功したが、肝腎のファンドレイズにはまだ十分に取っかかれていない。組織基盤（会計・各種報告書、データベース&IT、労務等）に予想以上に時間を取られたことが要因として挙げられる。

これを受けて、当期は改めて「ファンドレイズ」と「地域課題の熟知」を2大課題とする。すなわち、ファンドレイズ（およびそのためのネットワーク、関係性の拡大・強化）を図らないと財団のミッションは達成されないが、そのためにも、我々は誰よりも地域課題を熟知している集団にならなければならない、という関係である。トヨタ財団等からの助成事業もそのための手段として位置づける。

休眠口座をめぐる動きも本格化しつつあり、これが実現した場合には（早ければ2016年度から）、コミュニティ財団には大きな期待がかかる可能性が高い。市民一人ひとりから丁寧に寄付と共感を集めることを引き続き追求しつつ、同時に、日本の市民社会に大きなインパクトを与える可能性があるこの動きにも先手を打って動いていく必要がある。そのための体制強化も今年度の課題としたい。

具体的な事業としては、トヨタ財団等の助成事業を活用したファンドレイズ活動、その前提となる地域調査および関係拡大活動、そして自主事業である共感寄付事業が主な柱である。

**2. 事業**

ア 説明会・講習会の開催

(実施しない)

イ 寄付啓発事業

**(1) ファンドレイジング事業**

企業への基金設置や寄付つき商品、カードその他のCSR提案、個人へのアプローチ、既存の財団等へのアプローチを行ってゆく。(6)の企業調査の中でも行う。ここで基金や助成プログラムが具体化できた場合は、(4)として実施する。

**(2) 募金箱設置推進事業** 新規

募金箱を多数製作し、商店その他の一般市民から「見えやすい」場所に設置していただく。

一般の方の目に届くところに「露出する」ことで認知度向上を図るとともに、企業、商店、団体との関係強化のきっかけとも位置づける。

ウ 市民活動団体への助成事業

**(3) 共感寄付事業**

市民活動センター神戸から引き継いだ共感寄付の新規展開を行ってゆく。7月末頃に参加団体決定。8～10月の準備期間を経て、11月～2015年2月を寄付募集期間とする。

2015年4月より第2期を準備する。

(4) NPO への助成事業 **新規**

ファンドレイズをもとに助成事業を実施する。

エ 市民活動活性化につながる基金・財団等への支援

(5) 神戸文化支援基金事務局業務の受託等

公益財団法人神戸文化支援基金の事務局を受託する。

オ 調査研究事業

(6) 地域課題調査事業（トヨタ財団助成事業） **新規**

地域の課題を掘り下げ「見える化」するとともに、多くの人に会いネットワークを拡げ、寄付者にとって魅力ある寄付先を発掘してゆく。またこの事業から、(1) (2)にもつなげてゆく。

(7) NPO への相談・情報提供事業 **新規**

NPOからのファンドレイズその他の相談を受ける。対象は狭義のNPOに限定しない。週1回程度で定例化。

(8) 市民コミュニティ財団、市民ファンドの全国的な動きとの連携

休眠口座の動きを引き続き注視し、一般社団法人全国コミュニティ財団協会（発起人&会員団体）や市民ファンド推進連絡会（世話人団体）と連携してゆく。

### 3. 組織

(1) 役員、専門アドバイザー等の拡大

専門アドバイザーや、実働面で協力いただける役員のリクルートを行う。

(2) 事務局体制

現在は常勤2名、非常勤2名の計4名体制であるが、その強化が課題である。人員数以前に運営の効率化を最大限進めるとともに、事務局をバックアップする体制についても検討する。最終的には人員増も選択肢として考える。